

令和8年 8月 7日

氏 名 明石 良

(所信)

I. 私が描く大学 ～全学を一枚の芝生に

宮崎大学は、次の二十年間に何を育てるのか。私はその答えを、長年携わってきた芝草の研究に学びました。強い芝生は、単一の草種では育ちません。性質の異なる草種を混ぜて播く「混播」こそが、踏圧や病害に強い芝生を育てます。多様性こそが、芝生の強さなのです。

本学は統合以来、医療という強い草種を育て、地域医療の充実に目覚ましい成果を上げてきました。この確かな根に、深い敬意を抱きます。そして今、その根が張った大地に、二種目、三種目の草種を播く時が来ています。

私は理事・副学長として五年間、研究の第一線から一步離れ、人事と財務という大学経営の根幹を担い、大学という土壌を耕してまいりました。これからは、その土壌に新たな種をまき、教育・研究・地域貢献という豊かな実りへとつなげていきたい。全ての教職員と学生が深く根を張り、安心して挑戦できる一枚の芝生をこの大学に張りたい。そして、地域に根ざした芝生から世界へ価値を発信したいと考えています。

II. 三つの使命 ～教育・研究・地域貢献

第一の使命は、教育、すなわち人材育成です。

18歳人口の減少は、自らの将来や進学先を見いだせない高校生の増加という課題も生んでいます。だからこそ本学は地域の中核大学として、県内の国公立大学と連携し、質の高い教養教育を共同で担う体制を築きます。競争ではなく協働によって、地域全体の教育水準を引き上げます。また、アジアからの留学生を全学で受け入れ、単なる労働力としてではなく、地域社会と企業を支える高度専門職・リーダーへと育てます。学生もまた、大学を共に創る主体です。大学運営への参画と、自ら考え提案する機会を広げます。

第二の使命は、研究です。

研究力の源は、研究に向き合う時間と、それを支える環境にあります。私はこれまで、文部科学省補助金事業やJST (CREST) などの大型外部資金を獲得してきた経験を生かし、そのノウハウを教員へ伝えるとともに、申請から採択、研究推進までを支える体制を構築します。そして、教員が研究に専念できる環境を整え、本学の研究力の土壌そのものを豊かにしていきます。その上で、大学による戦略的な研究投資と企業・自治体等からの外部資金を組み合わせ、地域課題の解決につながる共同研究を力強く推進します。そして、宮崎から新たな価値を生み出す「知の種」を蒔き、その成果を地域、産業、そして未来を担う人材へと大きく育ててまいります。

第三の使命は、地域貢献です。

地域医療を支えてきた確かな実績の上に、地域の教育、古代から息づく宮崎の文化の継承、地域産業の活性化を加え、地域とともに歩む本学の裾野を広げます。

III. 第四の使命 ～人と組織を活かす経営

IIの三つの使命が実るかどうかは、土壌で決まります。その土壌づくりこそ、第四の使命「人と組織を活かす経営」です。人事と財務を預かった五年間、財源の制約の中で教員ポストの補充を見

送らざるを得ない場面に、私は担当理事として向き合ってきました。その痛みを誰よりも知る者として、約束します。

第一に、人を活かします。

大学の最大の財産は「人」です。私は、一人ひとりが持つ力を最大限に発揮できる大学をつくります。

そのためには、各学部の人事判断をできる限り尊重し、各学部人事案の実現と一緒に知恵を絞ります。具体的には、退職教員の後任補充は、各学部・研究科のニーズを最優先に、必要な人材を必要な場所へ迅速に配置します。また、若手・中堅教員には「キャリアシミュレーション」を導入し、自らの将来像を描きながら、安心して教育・研究に専念できる環境を整えます。さらに、若手、女性、外国人教員の積極的な登用を進め、多様性と活力にあふれる教員組織を築きます。

教育においては、学部の壁を越えて教員が協働し、全学的な視点で教育を設計できる仕組みを整えます。その対話と実践を積み重ねながら、時代にふさわしい教育組織の在り方を、皆さんとともに考え、創り上げていきます。

また、事務職員は大学経営を支える重要なパートナーです。教職協働をさらに深化させ、企画立案や大学改革への主体的な参画を促すとともに、専門性を高めるキャリア形成を人事政策の柱として位置付けます。

第二に、財源を確かなものにします。

運営費交付金の削減、人件費の高騰、施設の老朽化など、本学が直面する財政の厳しさを、私は理事・副学長として数字と現場の双方から見続けてきました。しかし、良い庭師とは、晴れた日に水をやる者ではなく、日照りや嵐の中でも芝を枯らさず育み続ける者です。厳しい時代だからこそ、未来への投資を止めてはなりません。

学内予算の配分は、一律の削減ではなく、各部局との対話と公開された基準に基づく「対話型予算配分」へと見直します。あわせて、共同研究資金や寄付・基金の拡充、さらには附属病院の経営基盤の強化を進め、削減に依存する経営から、稼ぐ力を高める経営へ転換します。

また、附属病院は大学の財政を支えるだけでなく、地域医療を支える中核でもあります。昼夜を問わず地域医療の最前線で尽力されている教職員の負担にもしっかりと心を配り、安心して力を発揮できる環境づくりを進めます。

第三に、組織創りを大切にします。

人と財源を活かす最後の鍵は、組織の力です。部局や職位の壁を越えて対話を重ねる仕組みを整え、教職員がともに考え、ともに支え合い、ともに成長する組織文化を育みます。どれほど良い土壌があり、どれほど良い種があっても、それを育てるのは組織の力です。

私は、庭師として先頭に立ち、この困難な時代を皆さまとともに乗り越え、一枚の芝生のようにつながる宮崎大学を育ててまいります。

結びに ～全学を一枚の芝生に

宮崎には、自然、農業、畜産、食、医療・看護、技術、防災など、世界に誇るべき資源と知恵があります。学部の垣根なく、多様な個性が織りなす一枚の芝生をこの大地に張り、地域に深く根ざしながら、世界へ宮崎大学の価値を発信します。「宮崎から、日本の地方大学の新しいモデルを示す大学」、その未来を、皆さんと共に実現します。

(注) 1. 用紙は、日本産業規格A4縦型とする。

2. 所信欄に、宮崎大学の将来構想、教育・研究・社会貢献・国際貢献、大学運営に関し、2000字程度で作成してください。

3. この所信表明書は、選考過程において公表されます。